上野動物園　見どころ新聞

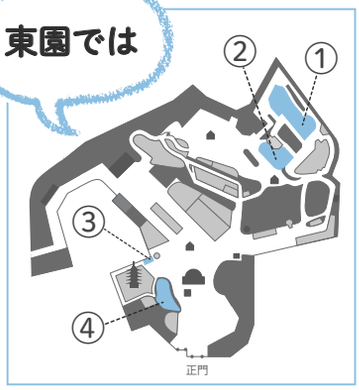
ZOO TODAY

7月号

（No.501　2026年6月30日発行）



東園では



7月29日は世界トラの日…①

ネコ科の動物は水を避けると思われがちですが、スマトラトラは暑い時期にはよく水に入ります。7月2日で1歳になる子ども2頭も、水にすっかり慣れて、おとな以上に水に入る機会が多いです。とくに、レスタ（メス）はおとなのトラでもなかなか入らない深いプールに入って泳ぐこともしばしばあります。

ところで、野生のスマトラトラはハーム油を生産するためのプランテーション拡大により、生息地が急速に減っています。世界トラの日をきっかけに、環境に配慮して生産された製品を選ぶなど、私たちにできることを考えてみませんか。





あの筒は何？…②

アメリカバクの展示場に、竹でできた筒状の給餌器を設置しました。中には小さな餌が入っており、バクは長い鼻先で筒を押したり揺らしたりして、こぼれ出た餌を長い舌で受け止めて食べます。鼻先を高く上げているときに口をよく見ると、鼻先だけでなく舌も意外と長いことがわかります。

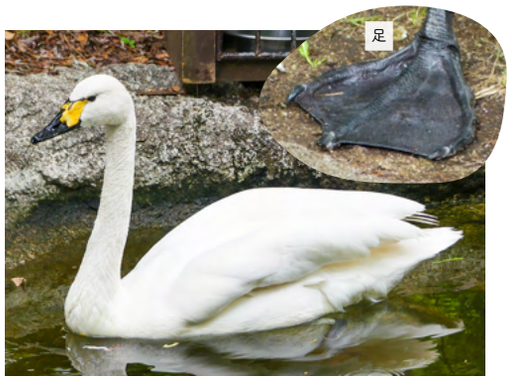
なお、「バクが見当たらない」と思ったら、展示場の奥までよーく探してみてください。茶色い岩のような、ずんぐりとした体が景色に溶け込んでいるのが見つかるでしょう。草食動物のバクは、このように敵に見つかりにくい体色で、森の中で身を守るのです。

ズアカアオバト展示開始！…③

6月15日から、沖縄の森に暮らすズアカアオバトの展示が始まりました。「ズアカ」という名ですが、頭が赤いのは同じ種で台湾に分布するものの特徴で、この沖縄のものには赤みはありません。全体的に落ち着いた緑色です。一方、同じ展示場にいるアオバトは、名前は似ていますが別の種で、日本では沖縄以外の各地に生息しています。こちらは、胸からお腹にかけては黄色みを帯びた明るい緑色です。離れて見るとよく似ていますが、お腹の色の違いをヒントに見比べてみてください。


ズアカアオバト

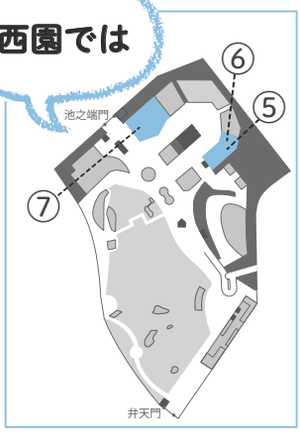

アオバト



夏限定！コハクチョウ始めました…④

鳥インフルエンザ予防のため秋から春まで屋内施設に避難し、夏の間だけ「日本の動物」エリアの池に登場します。涼やかな泳ぎを観察してください。よく「優雅なハクチョウも水面下では必死に足を動かす」と比喩的にいわれますが、実際には足を後ろに伸ばしている時間が長く、絶え間なく水をかくわけではありません。大きな水かきのある足を開いてひとかきすれば、スー…とかなり進みます。また水につかっているお腹の部分は、前後が細くなった流線形で、水の抵抗もかなり軽減されているのです。

西園では



小獣館１階：コビトマングースの餌探し…⑤



野生のコビトマングースは、地面の穴の中にいる虫をにおいて探し、さらに前足で掘り出すため、餌に到達するのに時間がかかります。そこで動物園でも、野生と同様に時間をかけて餌を食べてもらうため、新しい給餌器をいくつか製作しました。その１つが竹筒でできたシーソー型の給餌器です。竹筒の中には餌の幼虫が入っており、竹筒を傾けると中身が出てくる仕組みです。これを使うことで、穴から中のにおいを嗅いで餌を探す、前足で竹筒を傾けて中の餌を掘り出すなど、野生で見られるのと似た行動を引き出すことができ、時間をかけて餌を食べてもらえるようになりました。





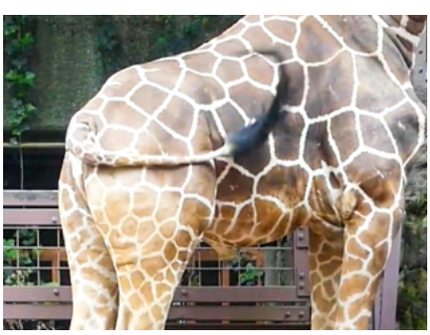
小獣館地下：ハリネズミではありません！…⑥

「アイアイのすむ森」に加え、小獣館地下でもヒメハリテンレックの展示を開始しました。背中に針のように変化した毛が生えているハリネズミのような姿ですが、まったく別の仲間の動物です。ハリネズミと違い、本種は木登りが得意なので、展示場内には生息地であるマダガスカルの植物「バオバブ」のミニオブジェを置いて登れるようにしました。彼らは鋭い爪を木に引っかけながらスルスルと登り、降りるときも垂直に頭から降りられます。また、野生では木の洞などで休むため、ここではこのバオバブの洞の中で丸くなって休みます。

キリンの寄生虫対策…⑦

暑い日が増えて、虫が多く発生する季節になりました。キリンが生息するアフリカの草原も一年中暖かく、キリンの体にはハエなどの寄生虫がつくのが日常です。キリンはこうした寄生虫から身を守るのに1m以上もある長いしっぽを使います。しっぽの先端の黒い毛は針金のように硬く、これを体に叩きつけて虫を払い落とすのです。動物園でも、特に暑い日には、しっぽを頻繁に振り回します。試しに３分間観察してみてください。しっぽを何回体に当てるでしょうか？

みんなで調べよう！結果はこちらに書き込みを➡



よくある質問

前号アンケートに寄せられた質問にお答えします！

Q. リスやマングースなど、１頭ずつ見分けるのが難しい動物の健康管理はどうしているのですか？

A. １頭１頭に印をつけて識別し、管理をしています。

動物を飼育するにあたり、１頭１頭をきちんと見分ける（個体識別をする）ことは、健康管理をしたり、計画的に繁殖を進めたりするうえで、とても大切です。大型の動物は、飼育数も少なく、また顔や体つき、もようなどの特徴も分かりやすいため、比較的簡単に見分けられます。しかし小動物はそれが難しいので、１頭１頭に印をつけて管理をしています。

哺乳類の場合は、皮下にマイクロチップを埋め込んでおき、必要に応じて専用の機械をかざして個体番号を読み取ります。鳥の場合は、番号が刻印されたリングやカラーリングなどを足（ペンギンは翼）につけて、それで見分けます。

ただ、特に見分けが必要なのは、やはり生活や健康に何か問題がある場合です。そのような個体については、飼育係が集中的に観察しているため、マイクロチップやリングに頼ることなく見分けてケアをおこなっている場合がほとんどです。





＼紙面向上のため、簡単なアンケートにご協力をお願いします／
アンケートに答えた方に紙面掲載動物のオリジナルデータをプレゼント！

発行：（公財）東京動物園協会　制作：上野動物園
◇無断で複製・転載しないでください　◇紙面に関するご質問等は教育普及係 解説班へ（03-3828-5171）

公式X(Twitter)　公式Instagram